

令和元年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和元年11月5日(火)

地区 しらかば町地区

会場 しらかば総合福祉会館

<意見交換>

○司会 それでは、意見交換の時間に移ります。

この意見交換の時間は、あらかじめお配りをしております町内会からの要望に関する意見交換や、本日、御参加の皆様との市政に関する意見交換を中心に、最大8時をめぐりに進めてまいります。

意見交換を進めていく中で、町内全体に関わらない個人的な要望ですとか苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に直接、担当者の方におつなぎいたしますので、御了承ください。

また、御発言の際には挙手の上、マイクをお持ちします。お住まいの町名とお名前を述べてから、お一人1件ずつ、3分以内で簡潔に発言をお願いいたします。

それでは、市政に期待すること、日頃、お気付きの点や御意見のある方は、挙手をお願いいたします。どなたかいらっしゃらないでしょうか。

はい、お願いします。

◆市民 しらかば町の■■■■と申します。

ことし、本市のほうですごい災害が発生して、隣の市町村のほうでもハザードマップの見直しとか、いろいろ避難場所の検討とかね、堤防が決壊してしまったらどうなるかということも、最悪の状態で考えたときに、どうしたら皆さんを助けられるかという。苫小牧は平らなところなんでね、高所とかそういう場所を見つけるにしても、なかなか難しいんじゃないかと思っておりますので。市ではそういうことに対して、早急に検討してるような情報も民報のほうで見えますので、その辺はどういうふうに、今、進行されてるかお聞きしたいんですけど、よろしく願いいたします。

○司会 分かりました。それでは、ハザードマップの見直しであるとか、避難場所であるとか、どのように検討してるかということで、市のほうからお答えいたします。

◎危機管理室副主幹 危機管理室の和山といいます。よろしく願いいたします。

危機管理室では、現在、去年の地震を受けて、それまでに用意してました各種計画、マニュアル等を実態に即した形で改正する作業を行っております。ハード面の整備についてはなかなかすぐにとすることは難しいんですが、皆様方に分かりやすく避難の方法を周知するべく、いろいろなマニュアルを見直しております。

また、地震の際には、市民の皆様から、また、担当した市の職員からもいろいろなアンケートを通じて改善点をいただいておりますので、それらを反映した形で、できるものから今年度中

ですね、マニュアルを改正して、最終的には私どもの根幹であります地域防災計画という大きな計画があるんですが、そちらのほうの改正につなげたいと考えております。よろしく願いいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、ほかにいらっしゃいませんか。はい。

◆市民 3丁目■■■■の■■■■と申します。

この間、河川課の課長さん、係長さんにおいでいただいて、御説明をいただいたんですけど、町内会の会長、副会長にも同席していただいて、私のところで伺いました。

今の関連なんですけど、そこでもお願いしたいことがございます。課長さんの説明ですと、千曲川のような、千も曲がってるかどうか分からないんだけど、蛇行している川ではない苦小牧の川です、河川はですね。だから、降雨量が千曲川の倍ぐらい降っても大丈夫な川なんですよという御説明をいただきました。

ただ、私は市の分譲地を譲り受けて、43年に家を建てて、3回、あっぶあっぶしてます。というのは、地下を掘り下げたものですから、地下に胸ぐらいまでの水が入っちゃって、地下にも部屋、作ってたんで、ひどい目に遭って、54年の10月、それから平成25年の8月、平成26年の9月、そういう大丈夫な川なんだけれども、3回遭ってます。80歳を超えましたんで、自己防衛策としていろいろやるにしても、もうちょっと自信がなくなって、実はこの間の10月4日の雨のときに、私は川沿いの道路のそばの家なものですから、窓からずっと見てたんですよ。そしたら、水位がぐっと上がってきまして、ちょっと長くなってすみませんね、くいが対岸のほうに、防波堤のところにくいがあって、そこにグリーンの網が張ってあって、そこを超えたんですね、水位が。

これは危機管理室に伺ったんですけど、10分間水位と、それから降雨量を伺ったんですが、25.5立方メートルだということで、過去の2回は、54年のときは79.5です、降雨量、1時間当たりの降水量ですね。それから、25年が90ミリ、26年が100ミリです。今回は25.5なのに、もうちょっとのところで、何ていうか、道路のレベルと同じ高さに水位がなあって、あふれてくるような状態で、非常にもう私は恐れおののいていたんですけど、幸いにも雨足がその後、弱くなって、水位がどんどん、どんどん下がって。過去、100ミリ級の雨が降ったときに被災してるわけですけども、25ミリでそんなふうになったので、これは危機管理室のほうにお尋ねしたら、10分間水位が670センチだと、この間の10月4日は。そのぐらいの、4分の1程度の降雨量なのに危ないところまで来て、10分間水位、670センチ、避難の警告が出るのは680センチだということなんで、10センチぐらいの差のところまで水位が上がっていたということなんです。

それで、お願いしたいのは、草が川底に相当生えてるんですね。それをさらってもらいたい。そうすると、流れる速度が変わって、同じ雨が降っても、それははけるんだろうと思うんです。

そういうことを市の河川課やなんか、この間、10月の28日のときにお願いに、私1人で行ってまいりました。そして、河川課とか水道課とか、いろいろ回って、1時から3時過ぎまで

かかって、2時間費やしました。80歳で2時間いろいろあちこち回るってのは、非常に大変な思いでやったんですけど、それで、お願いしたいことは、そういう情報を1か所に集めてですね、そして、それはあっち行ってください、これはこっち行ってくださいということではなくて、1か所で処理ができるようにお願いをしたいと。

それから、もう一点はですね、お願い、過去に何回も行ってるんですけど、いや、それはねと、市全体のこともあるので、それに緊急度で順番を付けてやってるし、予算の関係もあるので、あなたの今来た意見に、即答はできませんよというお答えがほとんどでした。今回もおおむねそういうお答えでした。それは、何かそうすると、いや、そうだよねと、いろいろなセクションがあって、調整もあるだろうし、町内会の調整もあるだろうし、で、何となく分かったよう分からないような理解して、今回まで過ぎたわけですね。

それで、お願いなんですけど、これも。各町内から上がってくる案件を、どういう案件が上がってきて、その緊急度はどうなのかということのを市でランク付けてしたのであれば、それを市民に公開してほしいと思うんですよ、ホームページでも何でも。それで、何となく私はいだいてるのは、声の大きいやつとか、うるさく言っていたやつが何か優先されてるんでないかという誤解をしておりますので、そういうことのないようにですね、その辺を何とかオープンにしていきたいなど。

それから、情報を1か所に行ったら、みんな伝わるようなあれをしてほしいなど、こう思ってるんです。政治家の中にはですね、次期の総理の候補の一人の石破茂さんは、防災省を作れというふうに言ってますね。防災担当大臣は置けるんですけど、彼は部下がいなくて、いろんなノウハウを積み重ねて、それをしっかり管理するブレーンがいなくて、統制だけの話で。だから、そういう、是非、セクションを設けてほしいものだなと、こういうふうで今、思っているところです。

大変長くなって申しわけありませんけども、そういう点をお願いしたいと思います。

○司会 そうしましたら、川の水位が上がって危険だということと、それから、あと、窓口がたくさんあって非常に苦勞されてるといったようなこと、あと何点かあったかと思うんですけども、市のほうからお答えさせていただきます。

◎道路河川課長 皆さん、改めておぼんでございます。都市建設部道路河川課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

いろいろ今、御質問をいただきました、大雨に関する事です。

まず、最初に、川底に草、それから土砂がたまってるって、それを取り除いてほしいというようなお話が、まず最初に1点ございました。

今、御要望の箇所は、 さんの家の近くの小泉の沢川のことだというふうに思います。その場所は、まず、平成27年度に一度、川底にたまった土砂、そのことによって水の流れが悪くなっております。それを取り除く作業を行っております。あれから約4年が経過しております。先ほど御質問にありましたように、いろいろ予算、優先順位等々の話もありますけども、ほかの流れている河川でも似たような、土砂を取り除かなければならないといった河川もございます。

今、私どものほうで計画を立てて、順番を考えてるんですけども、早くて今年度中には実施したいというふうに考えております。遅くても来年の台風シーズン前にはですね、何とか実施するように、今、考えておりますので、もう少しお時間をいただきたいというふうに考えております。

それから、2点目で、市役所のほうに来ていただいたときに、いろいろそれぞれ担当部署があって、あっち行って、こっち行って、そっち行ってって、そういうようなことで御不便をかけてしまったなということは、大変、まず、この場をもって、申し訳ないというふうに思っております。

今後はですね、そのような大雨だとか防災に関係すること、ほかの事業でもそうなんですけども、例えば私どもの職場に来ていただいたときには、その関連する、例えば職場の方を僕らのほうから呼んで、1か所に集めてっていいいますか、そこで全体的な話ができるように、市民の方、皆さんに御不便をおかけしないように、そこは気を付けてまいりたいというふうに考えております。以上です。

◎危機管理室副主幹 危機管理室の和山でございます。よろしくお願いいたします。

いろいろ防災に関する苦情等々の受付ということで、私どものほうで今まで受けているという実績がございます。今、伊藤のほうからお話がありました、関係課の職員を集めて対応させてもらってるという実績もございますので、防災上の問題であれば、危機管理室に来ていただければ、どこが担当する部署なのかというのを探しまして、みんなで、1回の御来庁で対応できるように努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、あと雨量ですとか、そういった天候のデータにつきましては、市役所のホームページに防災情報システムという、ホームページの見れる画面があります。そこで河川の水位、それから苦小牧市のポイントごとにある雨量の状態とかというのは見れるようになっております。少ないんですが、西側に1か所、真ん中のもうちょっと西側のところと、あと、東側の植苗にライブカメラ、静止画を1分ごとに更新しているものなんですけど、それで現在の天候を見れるといった情報発信もしておりますので、そういったところをですね、ふだんから気にかけて、御自身でまず得られる情報というのは先に情報を得ていただいて、予測できる対応に心掛けていただきたいと思っております。

その上で、私ども危機管理室も防災部門ですので、対応できることがありましたら、迅速に動けるように努めておりますので、よろしくお願いいたします。

◎副市長 副市長の佐藤でございます。どうも御苦労さまです。

後半のほうで、優先順位を決めて、もし、そういったことで仕事されてるんだったら、それを市民の方に出したらどうか、できないかという御相談でありましたね。

個々の要望というのは年間、たくさんいろんな職場に、御要望も含めてですね、それから、我々に対する注意も含めて、いろんな思いで伺います。それら全部、それぞれの部署でですね、担当することになるんですけど、例えば危機管理室のほうで一括で、例えば来年度でもいいからこういうことをできないかって要望を受けたときにはですね、危機管理室のほうで集約して、その優先順位を決めれば、全庁的という言い方しますが、市役所の中のいろんな部署の優先順位という

ことになるんですが、それぞれの部署で受けてしまうとですね、それぞれの部署で、例えば1番目って付けても、ほかの部署とかもっと上のやつもあったりするわけで、なかなかですね、統一的な優先順位を付けるって、実は難しいことになるんですね。

分かりやすく判断するときには、来年明けまして、2月に予算というの僕ら審議を受けるんですが、そのときにはですね、やはり、いろんな、前年度に、その年に受けた要望ですとか、例えば河川が氾濫して、どうしてもそこ、壊れてしまったとかいうのは優先順位を高くして、予算に反映するという作業になるんですね。そこは、申しわけないんですが、その予算の中身を見ていただければって、なかなか難しいですけどもね。例えばそういうときには、是非、担当のほうに、実は、例えばしらかばの■■■■というんだけど、あそこんこ氾濫して壊れて、早く直して、どうなっただろうという問い合わせを受ければ、そこについてはお答えをしていくということは、僕らふだんやっていますので、是非ですね、そういった使い方をしてくれればって。

それで、十分、■■■■さん、分かっていたら御質問されてると思うんですが、難しいのは地下駐車場なんです。あれというのは御存じだと思うんで深くは言いませんけども、どうしてもあれは自分で守るとするのがルールになってるところがあるんですが、例えば最近、徐々に置いてるの、近くに公園があれば、そこにそういった、雨降ったときに使えるような麻袋(またい)を作って置いてくとか、麻袋(あさぶくろ)とか、最近、ピータイといって、ナイロンでできたやつに入れて置いてくとか、そういうことはやっていますので、もし、雨降って、ちょっと心配なときには、地下に入らないように麻袋を積みたいんだというときは、どちらでもいいから問い合わせいただければ、もし■■■■さんの御近所になればですね、それは早々にでも、来年度から、これからちょっと雪のシーズンに入りますので、来年の雨のシーズン前に近くの公園につけて、場所、そこに置くようにしますからというのは、これは対応できますので、そういったこともやっていますので、是非、そういったことで御理解いただければと思います。よろしくお願いします。

◆市民 それからね、津波やなんかでね、逆流してくるんですよ。川の水が逆流してくることもあるんですよ。

◎副市長 はい、ちょっと専門的なお話もさせていただきなきゃならないんですけども、実は今回、本市のほうで、今回、あれは大雨ですけども、今、後半で津波の逆流の話もさせていただきます。

本市のほうでやってる河川改修というのが、昔は、江戸時代とか、もっと前からまちが先に出来てて、そこに川が流れてて氾濫何回も起こすというのをですね、そこを今でいう改修、河川改修というやり方なんです。堤(つつみ)って言いますが、築堤って言います、専門的には、土手を設けるわけですよ。それで、自分たちが住んでるまちのほうにあふれないようにという川の作り方をします。それ、何が怖いかというと、今回の氾濫がそうなんですけど、ある一定のどこまで来ると、そのときはまちの高さより水路が高いんですよ、実を言うと。それで、築堤というのが1か所でも崩壊すると、一気にそこから水が出ちゃうんですね。それで今回みたいな、ああいった災害を起こすって。

実は今回ですね、後半降ったやつでびっくりしたのが、数日、1日か2日であれ、1,000

ミリ降ってるんですね。苫小牧の年間平均の雨量というのが、大体1,100から1,300です。真ん中とって、1,200ミリぐらいしか降らないんですよ、逆に言うと。ええ、それが一晩とか、それだけで降っていると、幾ら河川改修、どんだけ立派なことしても、多分、駄目です。どうしても水って弱い所を狙って、ああやって、築堤、破ったりしますんで、あれはなかなか本市では。ああいう災害、多いんですけど。じゃあ、苫小牧はというと、掘り込み式の、いわば河川を掘って河川改修するんですね。ここ、リスクあって、片一方では、地盤沈下って聞かれたことあると思うんですけども、有珠の沢とか問題になったことがありますよね。なかなか僕ら、本当は掘ってやったほうが、水ってじわってあふれるので、意外と安全なんですよ。そこが本州と北海道、苫小牧の違いがあるんですけども。

それで、津波のときに逆流する可能性というのは、それ、津波の高さで、もちろん苫小牧市内の河川も逆流する心配はあります。それが、例えば僕ら想定してるのが、標高で8メートルなんという津波が来ると、川以前に、もう陸上から何から全部、東北の震災のときそうでしたですけども、川と言わず、もう一斉に津波が陸上も遡上するって。その中で一番、やっぱり道があるところを水って登るので、川を遡上するということになるんですけども、もうあれだけの津波来たら、もう川とかそんなこと言ってもらえないというぐらい。前々からお願いしてますけど、とにかくバイパスより北側に逃げてくださいって。津波来るまでには三、四十分かかりますんで、是非そこも。どうしても大事なものだけ、いつでも逃げれるように、はんことか、通帳だけはですね、枕元に置いておいてとは言いませんけども、いつでもそうやって避難できるような準備をされといて、もし、そうやって川を遡上するような、それだけ大きな津波が来るよって情報入ったら、まず逃げることを考えていただければと思います。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、ほかに何かございませんか、はい。

◆市民 しらかば西町内会の■■■■と申します。

先日、河川課さんのほうから、小泉の沢に新しく人道橋を設置いたしますというふうにお知らせがありました。早速、住民に知らせたところ、非常に喜んでおります。

ですけども、ちょっとそのことに関しまして、川沿町側の路面の高さと、それからしらかば町側の路面の高さが違うんですよ。しらかば町側のほうが低いものですから、あそこ、坂になるんですね、階段を付けなきゃいけない。自転車を通すためには、坂にする。それが非常に危険なんですよ。その辺のところを考慮しながら工事していただけないだろうかという話が1つと。もう一つは、そこで分かったことなんですが、川沿町側は約50センチぐらい高いんですね。しらかば町側が50センチぐらい低いんですよ。ああ、これは、もし、あれですね、洪水になったときは、こっちがいかれるなというふうに思ってるところなんですが、その辺のところも考慮いただければなというふうに思ってます。

もう一つ、まちかどミーティングに当たりまして、私たちの町内会、3つの事項をまとめましてお願いをいたしました。それに対しまして、回答を道路維持課さんのほうからいただきました。非常にありがとうございます。前向きな回答で、ありがとうございます。

先ほどの人道橋ができるということになりますと、私どもが事前に要望いたしました1番のところの遊歩道というのが非常に有効になって、非常に多く使われるような状態になります。ですので、この工事はできるだけ急いでいただければと、こう思ってますんで、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 それでは、市側の回答をお願いいたします。

◎道路河川課長 伊藤でございます。この間は、 をはじめ、しらかばの人道橋の架け替えに関することで御挨拶に伺わせていただきまして、ありがとうございます。

確かに川沿町側としらかば町側での高低差、高さの高低差はございます。しらかば町側が低いというふうになっております。ただ、人道橋をかけるときは、当然、傾斜をつけた人道橋を付けるわけじゃなくて、ほぼ水平というんでしょうか、平らな作りにします。そうすることによって、しらかば町側のところの高さの高低差が出てきてしまいますので、そこに階段を付けるような考えを持っております。

ただ、一方で、今、自転車の利用でおりやすくというようなお話もございましたので、そこは技術的にできる方法を再度ちょっと、そこは詳細を検討させてください。どのような方法で自転車をおりやすくできるかって。よく階段と階段の間に、地下歩道って聞いたことあると思うんですね、JRの下をくぐってるところ。そこでは、人が歩く階段と階段のその間にスロープのような、溝のようなものを掘って、自転車を押して乗り降りできるというような構造の作りをしてるところがありますので、そういったことも可能かですね、そこはちょっと勉強させていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

◎道路維持課副主幹 道路維持課の佐田といいます。

先日、現地のほう、立会いしていただきました。大変ありがとうございます。

当日もお話ししたんですが、ちょっと支障物件というか、畑を作ったりされてる方がおりますので、そのへん、お願いして回ってますので、その問題、解消しましたら、ちょっと前向きな検討はしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、ほかの御質問、お願いいたします。先に、よろしいですか、先に挙げている方、はい。

◆市民 しらかば西町内会の です。

先ほど防災の関係、ちょっと話ありましたけれど、大雨の対応として、ちょっとこれ、非常に難しい問題だと思いますが、雨が100ミリとか50ミリとかいろいろ言われますが、それだけ雨が降ると、自分のところの、果たして、道路の水位でも何でもいいですがね、何ぼ上がるのか分からないと。先般の大雨のときに、そのバイパスでもかなり水がたまって、車が止まってしまったとか。で、100ミリの雨が降ったら、この地区はどんだけ影響が。一応、計算上でいいですけど、レベルがこのぐらい上がりますよとか、そういうのを市民の方に知ってもらったら、危機感というのをもっと持っていただけんじゃないのかなと。そういうことを今度は検討していただきたいと、要望として、意見として出させていただきます。

○司会 それでは、市側のほうの回答をお願いいたします。

◎副市長 副市長の佐藤です。先に私のほうから。

同じ御心配されてる方、市内にたくさんいらっしゃるんです、これは事実です。それで、今、後ろから来たのは下水道の担当なんですけども、下水道のほうで、実は、浸水シミュレーションとって、これぐらいの雨降ったら、どこが水つくだろうかということ今、整理してるところなんです。それも、終わった段階では皆さんにお知らせするということになってますので、今ちょっとどこまで進んでるかというのは担当から話させますけども、ちょっと待ってください。

◎下水道計画課長 すみません、下水道計画課の三國谷と申します。

今、副市長のほうからお話あったんですけども、浸水シミュレーション対策というのを下水道のほうでは平成25年から行っております。

これというのは、コンピューター上で、今、コンピューターが大変発達しておりますので、この地形ですとか、あと下水道管の管網と言いまして、下水道管がどういうふうに配備されてるのかと、あと、河川の状況ですとか、そういったものをコンピューター上で再現しまして、コンピューター上でそれを解析していくというような作業をしております。そのシミュレーションというのが市内、今、広範囲にかなりやってみて、今年度で錦岡地区のほうまで終わることになります。大体、進捗率としては8割ぐらいの市街地で、今シミュレーションが終わったということになります。

今、残ってるところが、2割ぐらい、どこなんだといいますと、山際の団地のほうですね。そういう場所について、ちょっと、まあ、高地というのもありまして、まだ、シミュレーションやっていく進め方としては、ちょっと後半のほうにさせていただいたんですけども、今、平地といますか、そういった辺りについては錦岡地区のほうまでは今、終わってる段階です。

ですので、こういった辺りが、作業がまとまってきた段階で、今、言ったようなお話のことも何年か前からもいただいておりますので、市民の方にこういった形で公開するかということは、防災部局のほうともちょっと相談しながら、一応、内水ハザードマップというような形になるかと思っておりますけども、そういった形で公開のほうは検討してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、お願いします。

◆市民 しらかば西町内会の■■■■です。

IRのことについてお聞きいたします。先日、新聞で、議決されたわけなんですけども、推進するのを。その中の新聞記事の中にですね、推進する会派の議員さんが余り分からないんだというようなコメントが載ってました。非常に残念に思います、そういう議員がいるということは。棄権するなりということも考えてもよかったんじゃないかと思っております。

これは、そして、その日の記者会見で市長が、数年かけてでも住民に内容を理解していただきたいというような内容のことが載ってました。この数年というのは何年ぐらいを意味するのか、そして、どのような方法で市民に理解させるのか、教えていただきたいと思っております。

◎市長 市民理解に対する考え方ではありますが、これはもう議会でも何度も申し上げております。

先日の決議は、議会としての意思、IRの誘致に関する議会としての意思というものを苫小牧市議会として議決をしたということでございます。そのほかに、IR整備法、国の法律に関わる市議会、あるいは道議会の決議というものがこれから必要になってきますので、そのことを是非、踏まえておいていただきたいなというふうに思います。

もう一つは、我々、IRというイメージは、推進協議会のほうで北海道IRというのは世に出して、いろいろ我々も説明する機会、あるいは出前講座のときに説明してきましたが、この国で初めての事業モデルになりますので、現段階でなかなかですね、説明をしても、それがすっと伝わらないということを感じながら、これまで相当数、市民説明会とか、出前講座をやってきました。しかし、まだ具体的に、北海道が、知事が表明していない。仮に表明したとして、苫小牧、釧路、留寿都が今、手を挙げている北海道。その中でどこが指名を受けるかという問題もあります。仮に苫小牧が指名を受けて、北海道と連携しながらですね、チャレンジをするということになった場合でも、これから業者さん、どういう業者さんになるかというのはこれからの問題になります。したがって、どういう会社が選ばれるかによってですね、統合型リゾートの事業モデルが微妙に、多分、変わってくるんだらうというふうに思いますので、その都度ですね、やはり市民の皆さんには、我々、説明をしていかなければならないというふうに考えています。

どうしてもやはりパチンコ屋、公営ギャンブルがある日本で、今でもギャンブル依存症の7割がパチンコから来ると言われてる国でありますけれども、やっぱりカジノに対する拒否反応がありますので、あるいは全体の面積の3%以下という国の法律のルールがありますけれども、そのことが大体どういうことを指しているのかというのはですね、なかなか具体的に説明しないとイメージが付かないというふうなこともありまして、まあ、我々、段階的に、これからも市民の皆さんにしっかり説明をしながら、誤解、あるいは間違いがないようにですね、丁寧にやっていかなければならないと思っています。

そこに至るまでにはですね、やはり数年かかりますが、それが具体的に何年なんだと言われても、段階的に、少なくとも二、三年から四、五年ぐらいをかけて、段階的に説明責任を果たしていくというプロセスになっていくのではないかと考えておりますので、現段階ではまだ北海道知事が表明していない、あるいは北海道でどこが候補地になるか、まだ、分からない段階でありますけれども、我々としては、やはり、人口減少時代のキーワードは、良質な雇用をどれだけ作れるのか、できるだけ人口が減らないまちを作っていかなければならない。あるいは、人口が減っても食っていけるまちをどうやって作っていくのかということが問われている我が国。そして、全国の市町村、同じでありますけれども、そういう中でのチャレンジテーマとして統合型リゾート、これはなかなか分かりづらくて大変恐縮なんですけど、したがって、我々、市民の皆さんにですね、段階的に説明責任を果たしていく必要があるのではないかと考えて先般も記者会見で申し上げたところであります。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、ほかにございませんか。日頃、お気付きの点、何でもよろしいです。はい。

◆市民 しらかば西町内会、 と申します。

今見ましたら、2番目に、しらかば町4丁目4番南、5番排水って書いてます。これが、これの予定がいつくらいになるというのが書いてないんですけども、一度、市のほうにお電話しましたら、来ていただいて見てもらったんです、現地、道路を。そうすると、歩ける状態でないようなでこぼこの穴の、私もちょっと杖ついて歩くものですから、ひどいんです。工事の方が来て、アスファルトみたいに黒いの、ぼんぼんぼんと置いていきますよね。ぼんぼんと置いた上に、白い粉ぱっぱぱと振っていくんですけど、そういうのが平らになってないんですよ。全部が埋め込まさってないんです。穴があいてる真ん中だけを埋め込んで、その縁はもう石が出てる状態。そうすると、何もやってもらってないのと同じなんですよね。

それで、これはどなたが出したかという、多分、うちのこの列に関わってる方が、苦情が皆さん出てますので、署名を採って、一回、出そうかという話にはなったんですけども、それも関係のない方もいらっしゃるの、それもできないと。じゃあ、どうしようと思ったら、今、これ、出てましたので、例えばここは一度、関係者の方が来て、事実を見てもらって、歩いてもらって、歩きやすいのか。それから、ガス管か何かが入ってるみたいで、そこに一度こんな大きな穴があいたんです。それで、うちで役所に電話かけたら、その関係の方が来て、すぐ穴埋め込んだんですけど、段が付いてるんですよ、こういうふうに道路があったら、こういうふうに全部が。トラックが来ると、どんどんと走っていくんです。ですから、なお穴がだんだん大きくなってくのね。

ちょっと、うちのとこの道路は、皆さんも同じだと思んですけども、関係者の方、もう一度来て見てもらって。前に来た方は、うちと隣も、知らないで電話かけたら、土のうを置くと、玄関前に。うち、階段があって、ちょっと玄関上がるんですよ、そんなに雨がたまる、こんなにたまるんなら、土のう置きますかと。失礼でないかなと思って、じゃあ、あなたのうち、玄関前に土のう敷くって言ったら、敷かないって言って帰りました。ちょっとこれはばかにした答えかなと思うんですよ。こんな小さな問題を言うのは失礼なんですけども、ちょっとやっぱり一度見ていただきたいということです。よろしくお願いします。

○司会 分かりました。それでは、市のほうから。

◎道路維持課長 すみません、私、道路維持課の小西と申します。いろいろ御迷惑かけて、申し訳ございませんでした。

一応、しらかば町につきましては、ここにもお答えさせてもらってます、ことし500メートル工事させていただいてもらってます。

今、言われた、ここの町内会から言われた箇所につきましても、状況としては悪いということで、今後なるべく早い段階で処理できるような方法を考えようということで、原課のほうで考えております。

それを含めまして、後で住宅地図でもう一度確認した中で、今後、どのような対応をしていけばいいのかということを含めまして、ちょっとお話しさせていただきたいと思っておりますので、このまちかどミーティングが終わった後に、もう一度、お話を聞かせてください。どうもすみません、

ありがとうございます。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、ほかにいらっしゃいませんか。はい。

◆市民 日新町30号棟の■■■■といます。

ちょっと町内会というか、先ほどから、市から、何かあるとホームページを確認してほしいというふうな話なんですけれど、それを、じゃあ、高齢者とか、そういう方たちがどれだけ見れるか、確認してるかというようなことまで、市のほうではどういうふうにそれを考えてるかということを知りたいんですけども。

○司会 それでは、ホームページの発信について、どの程度把握してるかということでもよろしいでしょうか。

◎危機管理室副主幹 危機管理室の和山でございます。よろしくお願いたします。

ホームページ、見れる環境をお持ちの方を中心に、ちょっと最近はお話をさせてもらうことが多いんですが、その点につきましては申し訳ないと思っております。よろしくお願いいたします。

ホームページ、それから携帯電話等お持ちでない方々、どのように防災情報を取得したらいいのかということで、私どものほうで今、整備しておりますのは、防災メール、これもまた携帯電話なんですけど、そちらのほうにメール配信をするということをやっております、今度、防災メールで配信した内容、それから防災行政無線って、錦岡のほうにしか屋外スピーカーを設置していないんですが、そちらに流した防災情報、それを電話で聞き取れるサービスやっております。なんで、御自宅、若しくは外にいるときに、周りがざわついている、サイレンがいっぱい鳴っている、それから不安なとき、そういったときに、この防災ハンドブックって皆様のお宅に配らせてもらっているんですが、こちらの40ページのところに、苫小牧市テレホンサービスという電話番号を載せております。こちらのほうにかけていただきますと、今、市のほうで発信いたします防災情報が聞けるようになっております。

避難勧告を出しているのであれば、どこどこに避難勧告を出していますよとか、どこの地域で、危ないからそこには近寄らないでくださいとか、スピーカーで流す内容、メールに流す内容、そういった市民に知っていただきたい防災情報を流すことになっておりますので、何がしかちょっと平常時と違うなと感じたときには、この050-5865-1569という電話番号にかけていただいて、電話番号なんですけど、050-5865-1569、こちらで防災情報を流しておりますので、確認いただければと思います。

ここに掛けて何も起きていない、でも何か不安だとかっていったときにはですね、市役所の危機管理室のほうにお電話いただければ、そのときの状況というのは説明できるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◆市民 その雑誌を配ってるのは配ってるんですけども、実際に、じゃあ、どれだけの人がそれを見て、その電話番号まで見ているのかということは、どのような状況ですか。

◎危機管理室副主幹 この電話番号を知っている方々がどれぐらいいるかというのは、申しわけございません、ちょっと把握するすべがございませんので、そこまでは押さえていないんですが、この

ホームページを閲覧している方々、それから防災メールに登録されている方々というのは把握しております。

大体の数で申しわけないんですが、今、メールの登録者数については3,000件を超えておりまして、4,000、5,000件っていったところに、増え続けております。ホームページの閲覧数なんですが、直近の閲覧数はちょっと戻らないと、資料がないと分からないんですが、28年に整備して、28、29年と、大体、月平均5,000人ぐらいの方々が見ていたかと記憶しております。

もし、正確な数字ということでありましたら、このまちかどミーティング終わりました、ちょっと御連絡先をいただいて、後ほど報告させていただくということをお願いしたいと思います。

◆市民 知りたいのは数字じゃなくて、それをどういうふうにみんなに周知させようかとしているかということを知りたいわけです。

◎危機管理室副主幹 皆様に周知させるという方法でございますが、私ども危機管理室では防災出前講座というのもやっております。それから、年明けて、1月に毎年やっております市民防災講座、いろいろな機会を捉えて、この防災ハンドブックを軸にしてですね、こういう防災情報の取得について啓発を図っているところでございます。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 納得はしてないけどね、仕方ないよね。

◎危機管理室副主幹 なるべく一人でも多くの市民の方々に同じ情報をもらってもらえるように、

◆市民 知らせるように、市は手を尽くしてるということですよ。

◎危機管理室副主幹 はい。

◆市民 分かりました。

◎危機管理室副主幹 今後も頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 分かりました。

○司会 大分、時間も近づいてきましたけれども、どなたかほかにはいらっしゃいませんか。

それでは、若干、早いですけれども、これで意見交換を終了させていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 御熱心に御質問、御意見をいただきまして、ありがとうございます。やはりことしは、直近では台風19号、そして21号の被害の状況が、お茶の間に情報が流れて、きょうもですね、地元、苫小牧と同様な河川の問題等々あった場合にどうなのかという指摘がございました。

我々もですね、噴火、地震、津波だけではなくて、今回、改めて河川の氾濫等々、あるいは大雨被害に対する対応ということをチェックをして、市民の皆さんに安心してもらえような対応をしなければならないというふうに考えておりますが、先ほど副市長の話にもありましたように、やはり、構造上の問題等々ですね、河川について。まあ、苫小牧については、先日のような、千葉あるいは福島のようなことにはなりづらい構造を持っているということだけは、覚えておいていただきたいと思います。

あと、市民周知についてもですね、議会でもこれ、非常に強く言われています。きょう、松尾議員いますけども、徹底的に議会でこれ、やられています。我々もですね、いろんな、防災行政無線もですね、非常に高額になりますけれども、これを全市的に増やしていくということを、今、準備を始めております。

ただ、どんな場合でもですね、やはり、情報に対する弱者の方々というのは、そこも全部埋めるというのはですね、なかなか難しいことだというふうに思っていますし、近隣の皆さんが助け合いながらですねというところも、どうしても行政だけの力できないこともありますので、そこは、是非、受け手の皆さんの意識、あるいは受け手の皆さんもですね、我々、それ以上に一生懸命やりますけれども、情報の受け手の皆さん方の意識をやっぴり変えてもらうことも必要なんではないかと。そして、お互いに努力をしてですね、万が一の場合の、生命、財産を守っていくということですね、まあ、みんなが気付くまちにしていきたい。その気付きはですね、やはり、行政がきっかけを作っていかなきゃなりませんので、しっかりと頑張っていきたいなというふうに考えております。

御熱心な御質問をいただきまして。それで、きょう、この後ですね、是非、何か個人的なこと、あるいはきょうのテーマでも結構ですので、何かありましたら、市の職員にぶつけていただきたいなというふうに思います。

ただ、全市的なものについては、我々、どんな場合でも計画を立てて、そして、やっていくようにしています。やはり、公平性の観点等々もありまして、これ、なかなか難しい選択なんです。それで、先ほど「声が大きい人が」という話がありました。仮に町内会長が市会議員でもですね、言うことは、聞くことは聞くし、聞けないことは聞けないって、きちっとやっぴり言うのが我々、公僕としての役割でありますので、そんなことは絶対ありませんので、そこは、是非、信頼していただきたいなというふうに思います。

いずれにしても、防災についてはですね、市民の皆さんが心配している現実がここ数年あります。しっかりとこれからも対応して、その安心の壁を低くする努力を我々一生懸命させていただくことをお誓い申し上げまして、御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。

本日はありがとうございました。